



日本大学医学部創設100周年記念式典・記念祝賀会 開催報告

日本大学医学部創設 100 周年記念式典準備委員会委員長

日本大学医学部外科学系小児外科学分野 主任教授 上原秀一郎

日本大学医学部創設 100 周年を寿ぐ記念式典並びに祝賀会が、令和 7 年 10 月 26 日、東京・ホテルオークラ「平安の間」において厳かに挙行されました。本学部が歩んだ百年の歴史を振り返り、次の百年へ向けた新たな飛躍を誓う場として、教職員・卒業生・関係機関の代表者など多数の方々が参集し、会場は終始、荘重かつ温雅な空気に包まれました。

式典は医学部招待者 208 名、医学部同窓会招待者 165 名の計 375 名が列席され、午前 11 時、日基智明医学部次長の開式の辞をもって静かに幕を開けました。続いて、医学部室内楽アンサンブル 部による厳かな調べの中で国歌斉唱が行われ、引き続き林真理子理事長が御挨拶に立たれました。林理事長からは、創設以来受け継がれてきた本学部の気高い精神と先人の不断努力への深甚なる敬意が述べられるとともに、板橋キャンパス再開及び新病院建設に向けた「オール日大」での取り組みが力強く紹介されました。さらに、大貫進一郎学長からも御挨拶があり、医学教育・研究・臨床の三位一体を推進してきた本学部が、国内外の医療に果たしてきた多大な貢献と、その実績が未来へと広がる確かな可能性について言及されました。続いて、来賓代表として全国医学部長病院長会議会長・相良博典氏、日本私学医科大学協会会長・炭山嘉伸氏より祝辞が寄せられ、わが国の医学・医療の発展に対する本学部の歴史的役割が改めて讃えられました。祝電披露の後、式典後半では、木下浩作医学部長による記念講演「百年の軌跡 医の未来図」が行われました。講演では、大正 14 年の医学部設置、駿河台病院及び医学科校舎の建設、戦後復興、高度経済成長期の医療体制整備、そして現代における高度先進医療の展開に至るまで、本学部が時代御とに果たしてきた使命が多角的に語られました。併せて、新板橋キャンパス及び新病院の完成予想図が動画にて紹介され、会場は大いに活気づき、未来への期待に満ちた雰囲気が広がりました。校歌斉唱ののち、吉村利明医学部事務局長の閉会の辞によって記念式典は円成を迎えました。

式典に続き、同会場にて記念祝賀会が盛大に催されました。祝賀会は、木下医学部長の挨拶により開宴し、これまで本学部の発展を支えてこられた関係各位への深い感謝が述べられるとともに、創設 100 周年を新たな出発点として、教職員・

学生・卒業生が一層力を結集し、新しい医療価値の創造へ挑む決意が力強く語られました。続いて板橋区長・坂本健氏、浅井万富業務執行理事、吉澤明孝医学部同窓会長より祝辞が述べられ、地域医療への貢献、本学部の伝統への誇り、そして未来を担う若き医師たちへの期待と励ましの言葉が寄せられました。その後、医学部同窓生・伊藤大介先生に御手配いただいた樽酒「百春」による鏡開きが行われ、兼板佳孝副学長の御発声で乾杯となり、和やかに祝宴の幕が上がりました。祝宴の途中には、同窓生である衆議院議員の安藤高夫氏より御祝辞を賜り、会場をさらに華やかせました。また、長年にわたり本学部へ多大なる御寄付を賜り、学生の学習環境改善に多大な御貢献をいただいた小野真一氏、宮川美知子氏、倉石和明氏、さらに永澤奨学金を創設された第 4 代医学部長・永澤滋先生の直孫である永澤英孝氏に対し、感謝状の贈呈が行われました。祝賀会の最後には、日本大学医学部附属板橋病院・吉野篤緒病院長より謝辞が述べられ、新板橋キャンパス及び新病院の建設に向けた温かい御支援を賜りたいとのお願いとともに、深い感謝の意が示され、盛会裡に閉会となりました。

会場では、久方ぶりの再会を喜び合う姿、世代を超えた交流に花を咲かせる光景が終始見られ、100 周年にふさわしい温かな祝意と連帯の空気が満ちておりました。なお、記念祝賀会の総出席者は 395 名（医学部招待者 205 名、同窓会招待者 190 名）にのぼりました。今回の式典及び祝賀会は、単なる記念行事の域を超え、本学部が次の一世紀に向けていかに歩むべきかを内外に示す、きわめて意義深い機会となりました。人口構造の変化、医療の高度化、国際化の進展など、医学を取り巻く環境は大きく変貌しつつあります。そのような時代潮流の中で、本学部のもつ総合力、多様性、学際的連携こそが、未来の医療人育成における確かな強みとなるに違いありません。本学部が 100 年の歴史を揺るぎない礎として、これからの社会に求められる新たな医療の姿を創造し、さらなる発展を遂げることを心より祈念申し上げます。結びに、本式典・祝賀会の成功を支えてくださったすべての関係者の皆様に、改めて深甚なる謝意を表し、開催報告といたします。